

そもそも多文化共生とは・・・

「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」(総務省多文化共生研究会、2006)

流れ・歴史

以前は地域国際化と言われていたが、2006年に総務省が「**多文化共生推進プラン**」を策定。ここから日本ではインバウンドよりも、在住外国人のための支援に重きを置くようになる。東京都では2015年、東京オリンピック開催が決定した時期に「**東京都多文化共生推進指針**」を策定。そして日野市では2021年4月、多文化共生の担当課となる「**平和と人権課**」が組織されました。

全国的な課題

1980年代から国内の外国人人口は増加、2013年頃から急増の一途を辿っており、そのほとんどが15歳～39歳という稼働年齢層である。その反面、日本人人口は2008年をピークに年々減少しているのに加え、少子高齢化が進行している。

このような現状から、在住外国人も地域に住む一市民であると捉え、地域社会の担い手となることが期待されるが、言語、文化、価値観や習慣の違いによる教育面や福祉面における意識の差、地域住民とのトラブルなど、外国人と日本人を取り巻く課題は多岐に渡っている。

『ひの多文化共生プロジェクト』がはじまります

日野市は、国籍を問わず、誰もが地域の一員として共に生きられる、多文化共生のまちを目指すため、『ひの多文化共生プロジェクト』を始めます。

1 日野市の現況

①在留資格別人口順位

| | 第一位 | 第二位 | 第三位 | 第四位 | 第五位 |
|-----|-----|----------|----------|----------|-------|
| 日野市 | 永住者 | 留学 | 技術・人文・国際 | 家族滞在 | 特別永住者 |
| 東京都 | 永住者 | 技術・人文・国際 | 留学 | 家族滞在 | 特別永住者 |
| 全国 | 永住者 | 技能実習 | 特別永住者 | 技術・人文・国際 | 留学 |

- ・日野市の外国人市民の割合は、総人口の約1.8%で、毎年増加しています。
- ・かつては外国人と接する機会と言えば、海外旅行や特別な場面でのことで、いわば非日常だったかもしれません。
- ・しかし今は暮らしの中で外国人と接する機会は日常であり、外国人市民は、同じ地域に暮らす仲間です。

②国籍別人口順位

| | 第一位 | 第二位 | 第三位 | 第四位 | 第五位 |
|-----|-----|------|------|-------|------|
| 日野市 | 中国 | 韓国 | ベトナム | フィリピン | ネパール |
| 東京都 | 中国 | 韓国 | ベトナム | フィリピン | ネパール |
| 全国 | 中国 | ベトナム | 韓国 | フィリピン | ブラジル |

- ・国籍を問わず、お互いの文化や習慣を尊重しながら、共に暮らすことで、一人ひとりを大切にする多様性のあるまちを目指します。

- ・日野市の外国人市民は9割が東南アジア圏出身の方です。
- ・そのため市内の外国人市民と日本語以外の言語では、英語がほとんど通じません。
- ・そこで共通言語となるのが、「やさしい日本語」です。

やさしい日本語とは？

難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮したわかりやすい日本語のこと。

例えば…

- ・児童 ⇒ 子ども
- ・廃棄 ⇒ 捨てること
- ・押印 ⇒ はんこを 押すこと

Point

★多くの外国人が理解できる「**易しい**」言葉

★日本人と外国人がお互いに歩み寄ることで成立する「**優しい**」言葉

これからの社会に必要な共通言語

子ども向けや
高齢者向けにも
有効的！

外国人の日本語の理解度に関する主な調査

日本語を日常生活レベル以上で話せると回答した割合

| | | | |
|-------|---------|----------------|-------|
| 2009年 | 国立国語研究所 | 生活のための日本語:全国調査 | 61.7% |
| 2016年 | 法務省 | 外国人住民調査 | 82.2% |
| 2019年 | 横浜市 | 外国人意識調査 | 76.6% |
| 2020年 | 埼玉県 | 外国人住民意識調査 | 96.2% |

このような調査結果より
日常生活レベルの
簡単な日本語であれば
十分通じることが分かる。

日野市では「やさしい日本語」を推奨しています。

2 ひの多文化共生プロジェクトとは

国籍を問わず地域で共に暮らすためには、相互理解、様々な主体による支え、地域全体の交流を丁寧に行う必要があります。しっかり土台づくりを行い、具体的な取り組みを経て、多文化共生のまちを目指す活動全体を、『ひの多文化共生プロジェクト』と表現します。

Step3 めざすまちの姿『多文化共生のまち、ひの』

国籍や民族等の異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生き、一人ひとりを大切にする、多様性のあるまち『多文化共生のまち、ひの』へ。

Step2 外国人市民の暮らしを支える具体的な取組

生活支援

- ・防災、医療・福祉、住居、就労、教育、など、関係部署による支援

コミュニケーション支援

- ・外国人向け情報発信の工夫
- ・支援団体の支援による日本語学習支援
- ・外国人市民の参加

多文化共生への理解

- ・相互理解の啓発促進
- ・やさしい日本語の普及
- ・市内支援団体との連携拡充・強化

Step1 多文化共生を進める土台づくり

日野市 外国人相談

暮らしの中の困りごと、不安の解消

支援団体ネットワーク会議

市内支援団体のつながり構築

多文化共生版・地域懇談会

外国人市民、日本人市民がお互いを知る、理解する、交流する場づくり

令和4～5
年度から

令和
3年度から

3 多文化共生のプラットフォーム『多文化共生版・地域懇談会』

この多文化共生プロジェクトの核となるのは、『多文化共生版・地域懇談会』です。

外国人も日本人も。行政、事業者、学校など、みんな。地域を構成する様々な方が集い、多文化共生に向けた現状や課題を共有し、何ができるかを考え発信します。

ここに来れば、多文化共生の今がわかる、取り組む人に出会える、日野の多文化共生を体現するプラットフォームです。

